

緑の風 NEWS

JR東労組



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2024年 8月29日 No.20

これがJR東日本の職場現実③

安全文化を再構築しなければ事故の連鎖は止まらない!

8・8集会で出された各職場からの声を紹介します!



【バス職場】

管理者が乗務中の運転手の私物の携帯電話にあえて電話を掛けて電源「切」を確認している。また、到着した運転手に対しても管理者が待ち伏せをして、私物の携帯電話の電源「切」の確認が行われている。

不必要な社員管理は、バス運行の不安全につながるとの声が出されている。



【営業職場】

年休を取得すると、誰かの休日出勤が確定する。静養休暇の取得申請に対して「なんとかならないか。これから主務や副長を目指す中で副長になれば、少し無理して働かなければならない場面が出てくる」と発言。



【営業職場】

突発年休で作業ダイヤに穴をあけ、作業ダイヤ数通りに要員を確保できないことも月数回、駅で発生している。

会社は、統括センター化で隣接駅への融合教育が可能と回答していたが、養成計画に人を送り出せない。



【工務職場】

線路作業中に汽笛吹鳴を受ける事象が連続発生しているが、大きな要因は列車見張員が見張りに専念していない、自分の任務に専念できない、安全よりも作業が優先され、必要最低限よりも少ない人数で作業してしまう現実。



【運輸職場】

新規運転士の教導研修で「優しく教えてください」と言われている。これまで先輩から厳しい指導教育を通じて安全や技術を守り、向上させてきたのに「優しく教えてください」とはどういうことなのか。

